

<第71回調査>

2015年04月27日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2015年04月14日(火)13:00～2015年04月21日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。  
今回の有効回答数は915件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

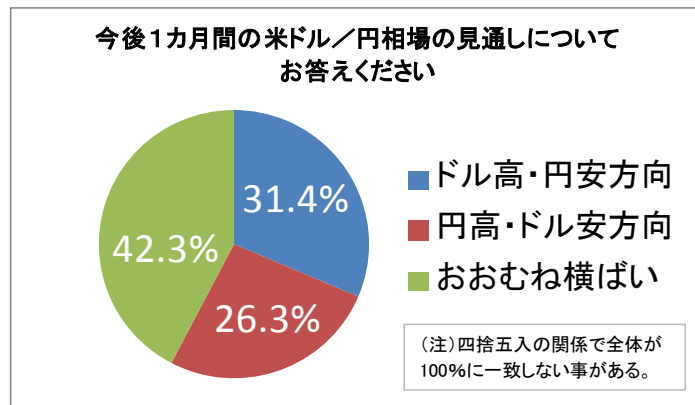
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第71回調査結果略報：米ドル/円強気見通しが後退】

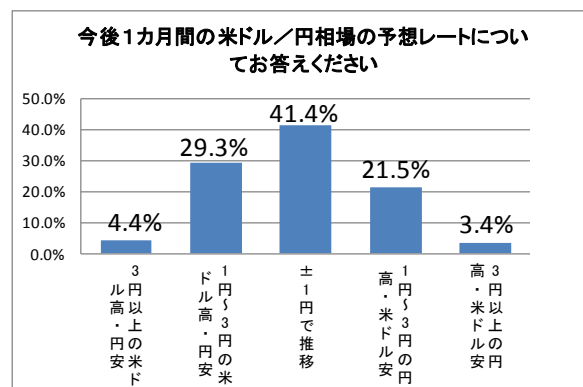
### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が31.4%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は26.3%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+5.1%ポイントとなり、前月の+38.7%ポイントからプラス幅が大幅に縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は、120.10円台から118.50円台へと弱含んだ。3月小売売上高や3月鉱工業生産などの経済指標に弱めの結果が目立ち、米国の利上げ開始時期に不透明感が広がった事がドルを押し下げた。こうした中で、個人投資家の相場観にも不透明感が増したようだ。調査期間直前に、浜田宏一内閣官房参与が「購買力平価からみれば105円が妥当」などと発言した事も影響していよう。 ※過去の米ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「±1円で推移」と答えた割合が41.4%と最も多く、「1円～3円の米ドル高・円安」が29.3%、「1円～3円の円高・米ドル安」が21.5%と続いた。「3円以上の米ドル高・円安」は4.4%、「3円以上の円高・ドル安」は3.4%であった。ヒストグラムの形状はピラミッド型に近く、相場見通しが分かれた問1の結果と整合的である。なお、前回の調査で43.5%と最も多かった「1円～3円の米ドル高・円安」が回答割合を大きく減らした一方、前回は11.9%に留まっていた「1円～3円の円高・米ドル安」の割合がほぼ倍増している点特徴的だ。個人投資家の米ドル/円相場に対する強気度合いが薄れつつある様子が窺える結果となった。



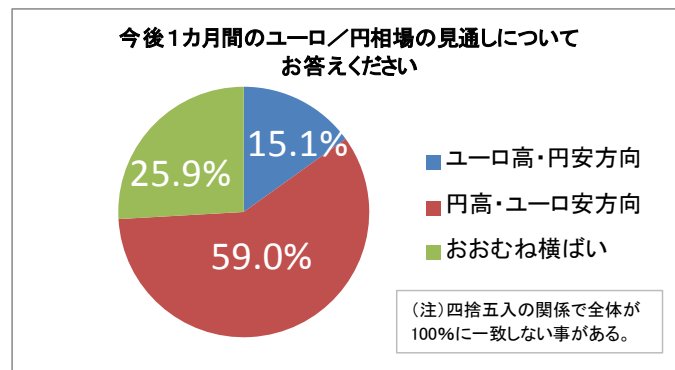
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が15.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が59.0%であった。この結果、**ユーロ/円予想DIは-43.9%ポイント**と、前月(-45.3%ポイント)からほぼ横ばいのユーロ弱気・円強気予想となった。調査期間中のユーロ/円相場は、126.093円まで下落して2013年6月以来の安値を更新するも、その後128.70円台まで切り返した。ただ、ギリシャの債務不履行懸念がくすぶる中では個人投資家の見通しが改善する事はなかったようだ。

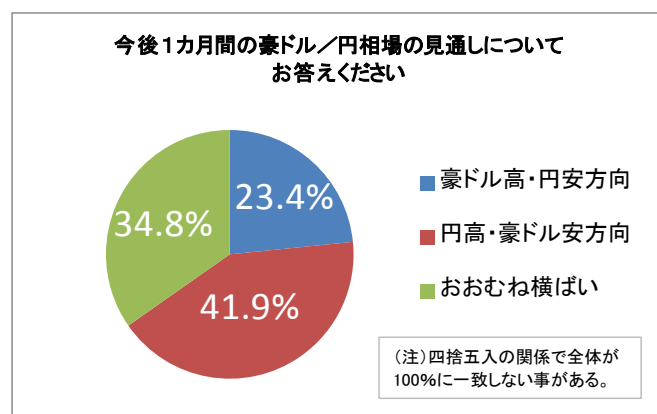
※過去のユーロ円予想DIの推移はP6-7に掲載。



### 問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が23.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は41.9%であった。この結果「**豪ドル/円予想DIは-18.5%ポイント**」と、調査開始以来初の5カ月連続マイナスDIとなり、マイナス幅も2013年6月以来の大きさとなった。調査期間中の豪ドル/円は、90.40円台から93.00円台まで反発するも91.70円台に失速するなど、結果的に豪3月雇用統計の好結果では利下げ懸念を払拭する事はできなかった。こうした流れの中で、個人投資家の豪ドル弱気見通しも払拭される事はなかったという事になる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP6-7に掲載。

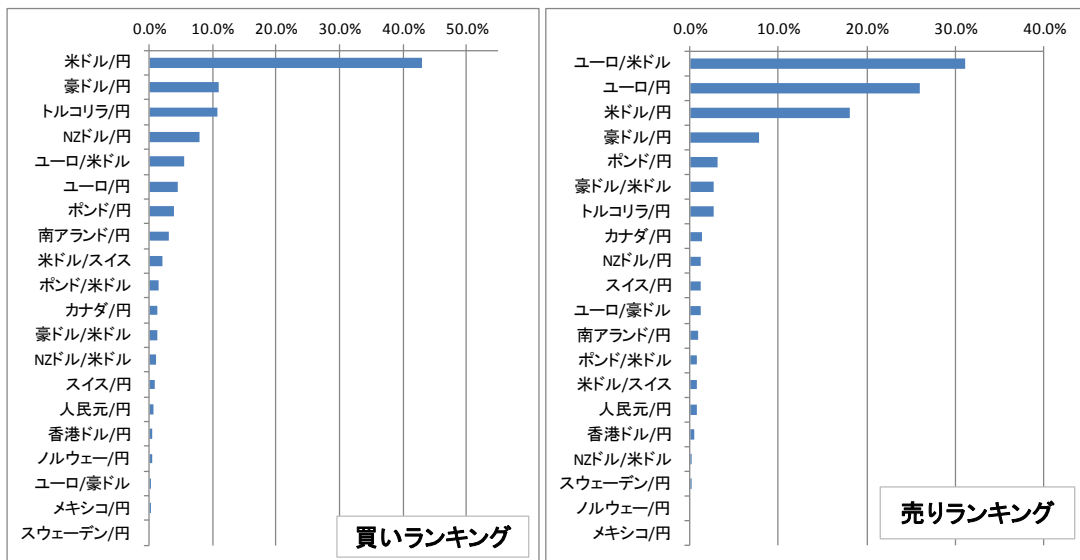


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が43.0%と、31カ月連続で最多の回答割合を集めて第1位をキープ。以下、2位豪ドル/円(11.0%)、3位トルコリラ/円(10.7%)、4位NZドル/円(7.9%)、5位ユーロ/米ドル(5.6%)、と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位ユーロ/米ドル(31.0%)、2位ユーロ/円(25.9%)、3位米ドル/円(18.0%)、4位豪ドル/円(7.8%)、5位ポンド/円(3.1%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円の最長記録更新が続いており、独走を脅かす通貨ペアすら見えてこない状態だ。米ドル/円の見通し(問1)を踏まえれば、後続が差を詰めても不思議ではないところだが、2位以下の豪ドル/円やトルコリラ/円といった高金利通貨もそれなりの「弱み」を抱えているため、米/ドル円に取って代わるほどの魅力を感じないという事だろう。「売り」で注目の1位、2位をユーロ/ドル、ユーロ/円が占めたように、個人投資家の間でユーロへの信認が著しく低い事も、ドルへの投資意欲が低下しにくい理由のひとつであろう。

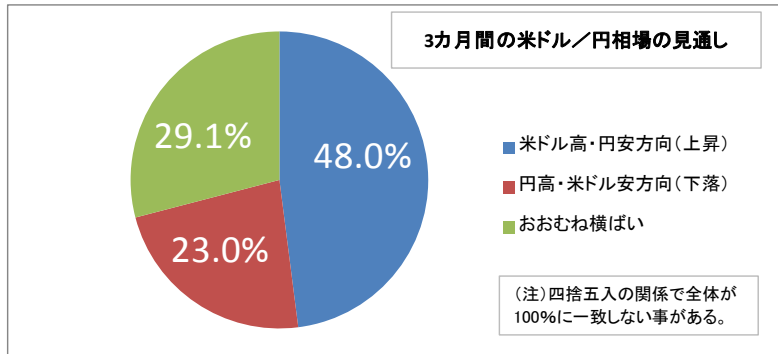


※これまで毎回更新してまいりました【FX取引の際の取引保証金の額】【現在の[実効レバレッジ]で最も近いもの】【一度に注文する注文数量で最も近いもの】に関しましては、書籍「外為白書」(10月頃刊行)へ掲載予定です。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

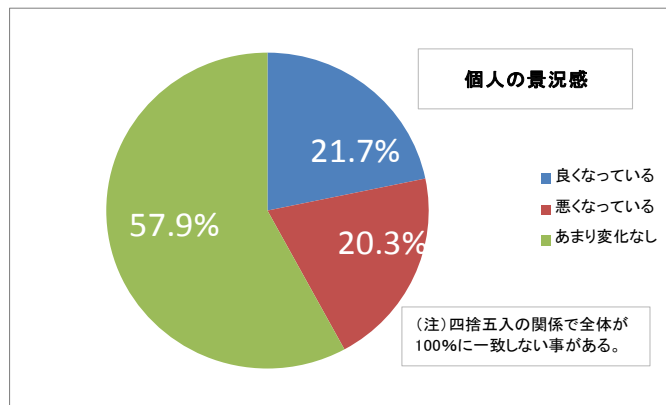
**問6: 今後3カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください  
(ひとつだけ)**

今回の特別質問項目として、今後3カ月間の米ドル/円相場見通しについて尋ねたところ、「米ドル高・円安」と答えた割合が48.0%、「円高・米ドル高」と答えた割合が23.0%、「おおむね横ばい」が29.1%であった。問1の「今後1カ月間の米ドル/円見通し」と比較すると、「米ドル高・円安」が31.4%から16.6%ポイント増加している。米ドル/円相場は、短期的に伸び悩んでも中期的には上昇基調を維持するとの見立てが多い様子が窺える。また、その理由についてもお聞かせ下さいと尋ねたところ、「米ドル高・円安」と答えた向きからは「米国の利上げ見通しが固まればドルが上昇する」との回答が多く、6-7月頃にドルが上昇を開始すると見込む、との回答もあった。意外にも「日銀の追加緩和」を見込んだ回答は少なかった。なお、「円高・米ドル安」と答えた向きからは「米国の利上げが9月以降に後ずれしそうなため」との回答が多かった。



**問7: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)**

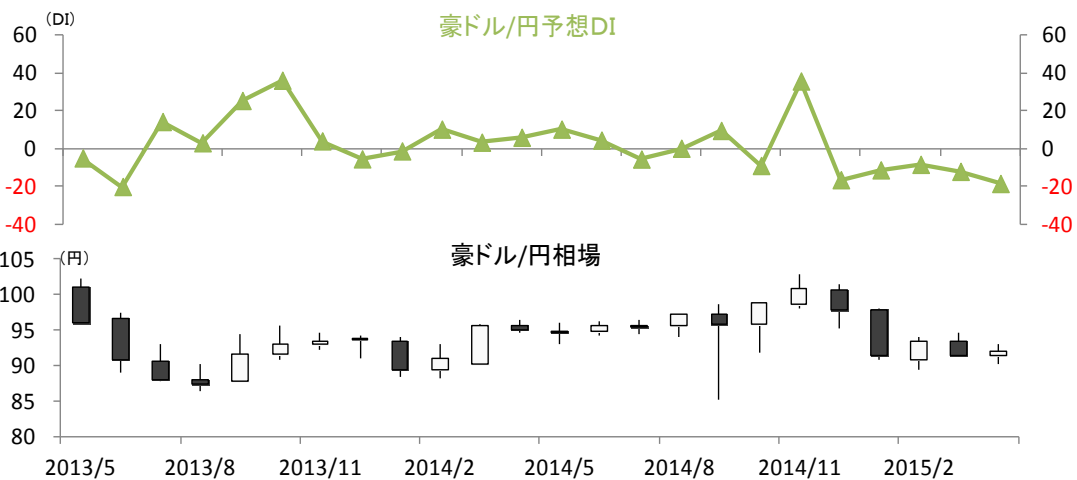
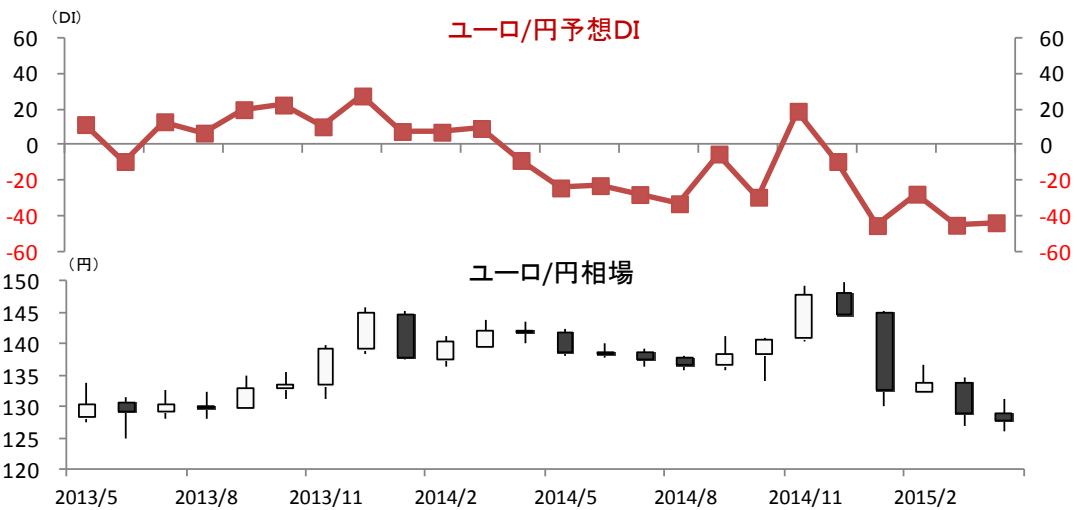
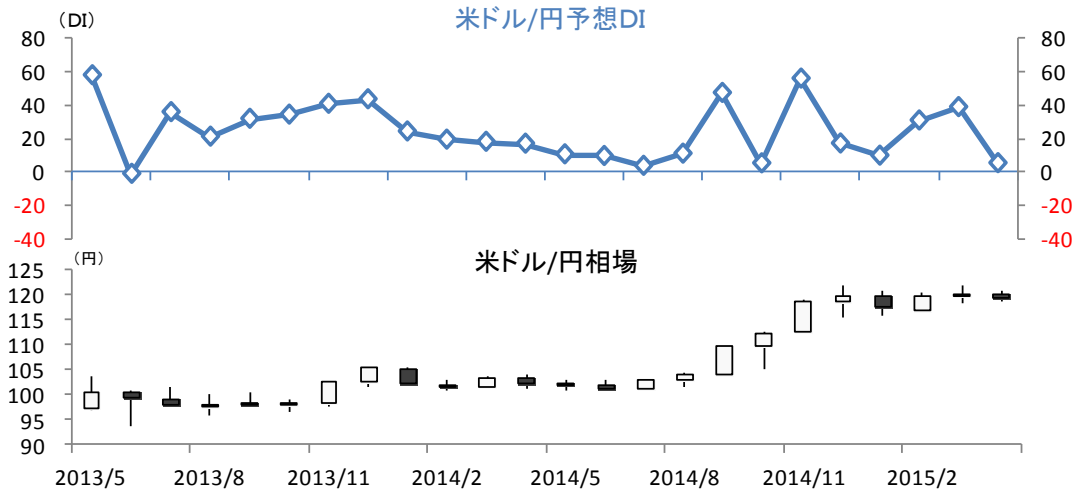
もうひとつの特別質問項目として「あなた個人の『景況感』はいかがですか？」(ひとつだけ) と尋ねたところ、「良くなっている」とした割合が21.7%、「悪くなっている」が20.3%、「あまり変化なし」が57.9%という結果になった。3カ月前の第68回調査と同様に「あまり変化なし」が過半数を占めており、米ドル/円相場が当時の水準と「あまり変化なし」である事が影響したのかもしれない。ただ、3カ月前に比べると、「良くなっている(前回18.6%)」がわずかに増加すると同時に「悪くなっている(前回24.9%)」がわずかに減少している。劇的とは言えないまでも、個人投資家の景況感は緩やかに改善しているようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第71回目となりました。調査開始からほぼ6年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2013年	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com